

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 准教授

氏名 村上裕信

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

牧場実習、家畜衛生学II、家畜衛生学実習、動物衛生学、家畜伝染病学実習においては、感染制御を基軸として、動物の管理から疾病制御・予防を目的として授業・実習を行っている。また、卒業論文等に関わる科目では、現在問題となっている感染症の制御法の確立に関する研究を通して、問題解決能力を身につけてもらうように指導している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
牧場実習	獣医学科	必修	2	136
家禽疾病学	獣医学科	必修	4	139
家畜衛生学II	獣医学科	必修	4	140
家畜伝染病学I	獣医学科	必修	4	139
家畜伝染病学II	獣医学科	必修	4	140
家畜伝染病学実習	獣医学科	必修	5	130
獣医学特論I	獣医学科	必修	5	1
獣医学特論II	獣医学科	必修	5	1
卒業論文	獣医学科	必修	6	4
動物感染症学III	獣医保健看護学科	必修	2	74
動物衛生学	動物応用科学科	必修	3	156
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	1
動物応用医科学特論I	動物応用科学専攻(博士前期課程)	選択	2	1
動物応用医科学特論II	動物応用科学専攻(博士前期課程)	選択	2	1

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

社会には様々な問題があるが、これまで人類はその問題を解決または改善していくことにより危機を克服し、社会発展してきた。特に現代社会における問題は常に変化しており、その変化は過去と比較すると極めて早い。その変化する対応するための知識・能力を身につけてもらうことで、社会で必要とされる人材になり、個人のみならず、周囲の人々(社会)の幸福度が向上すると私は考えている。そのため、私の教育理念は、学生に問題解決力を培ってもらうことである。その問題解決力を培うためには、過去の歴史の成功や失敗例から多くを学びとり、現在発生している問題解決への応用力を身につけてもらう事が必要であると考え。この手法は、私の専門である感染症のみならず、様々な問題へ適応できると考えているため、その基盤となる学習をしてもらうことを目指している。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

これまでの教育では、社会に必要な知識および問題解決能力を備えてもらうことを目的とし、その目的を達成することにより、社会で活躍できる人材を輩出できることを目標としている。これまでの教育経験では、私の専門である感染症を基軸として、現在および過去においてどのような経験を人類は得てきたのかを講義等で説明する。また、産業動物、コンパニオンアニマル、人の感染症の対策は一様でなく、病原体の種類によっても対策が異なることを説明する。特に、昨今の新型コロナウイルスの人類への驚異やその対抗手段の模索は多くのことを学べ、さらに身近な問題として捉えやすいため、授業・実習・研究室活動の際の具体例として引用して、興味を持ってもらうように試みている。また、人類は現代になっても感染症による差別問題を解決できないことを露呈したため、過去と同じ過ちを繰り返していることも、教育に取り入れ、感染症を基軸とした経済活動や思想についての失敗や成功事例から多くのことを学び取れるように促している。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

現在行えていない。

#### (2) ICTの教育活用

有

動画により復習できる環境を整えている。

### 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

#### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

現在の国内の感染症の発生例やニュースを取り入れて、身近な問題として理解してもらうように工夫している。

#### (2) 学生の理解度の把握

B

小テストを毎回の授業で実施して、学生の理解の把握に努めている。

**(3) 学生の自学自習を促す工夫**

**B**

資料及び動画による復習ができる環境を整えている。

**(4) 学生とのコミュニケーション**

**B**

授業後の対面での質問やメール等での質問にはすべて回答して対応している。

**(5) 双方向授業への工夫**

**C**

双方向授業は現在行えていない。

**(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）**

**A**

時事問題や国家試験頻出項目についてはその旨を伝えて、詳しく説明している。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

**(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映**

授業評価アンケートでの良い点については、更にその項目を増やすのと、試験の評価等の問題提起については、学生の意見を取り入れて改善した。

**(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題**

授業での説明や資料の改善及び複数回答を問う問題に対する配点を変更した。

**(3) (2)を踏まえた次年度の取組**

次年度も同様に学生の意見を取り入れて問題点を明らかにして、改善を行う。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

要点についてはより明確にし、社会的な課題がすべての授業を通してわかるように授業に取り組む。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生授業評価により、改善効果が得られたか判断する。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

学内のFD研修等を受講して、授業等で取り入れられることがないかを模索している。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

短期的な目標は、課された課題を独力で考えて解く力をつけてもらうことである。その積み重ねにより、将来の方向性を自身で決定し、社会で活躍出来る人材となってもらうことを長期的な目標としている。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

授業評価